



Library Liébana

2023年8月度展示内容のお知らせ

【今月のベアトゥス写本】

今月は『異形の中世』と銘打ち、中世写本に描かれた異形の生きものを紹介したいと思います。あわせて、中世後期になりますが、ブリューゲルの版画に描かれた生き物も紹介します。

【詩編に描かれた生き物】

【ベアトゥス黙示録写本】



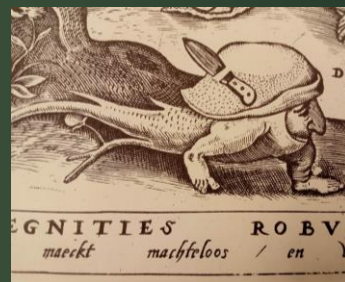
(14世紀前半
ラットレル詩編)

(14世紀前半
マックスフィールド詩編)

(12世紀末
ナバーラ写本)

(11世紀末
オスマ写本)

【ブリューゲル全版画より】



(聖アントニウスの誘惑)
1556年

(忍耐)
1557年

(怠惰：七つの大罪
シリーズ) 1558年

(嫉妬：七つの大罪
シリーズ) 1558年

ファクシミリ本でみるスペイン黙示録の世界 中世彩色写本を紹介

8月の開館日(予定)
水・木・金・日曜日
(HPで確認下さい)

Google Map



愛知県豊田市西町5丁目5
VITS豊田タウン B1F
(西町5丁目北交差点の
外側階段を降りて下さい)
10:30~17:30

H.P.



Instagram



ファクシミリ本とは：
オリジナル写本の大きさや色を再現。
特に羊皮紙の厚みやしわも忠実に
再現した複製本も多数展示しています。



2023年8月						Library Liébana					
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	日曜日
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
10:30 -17:30	10:30 -17:30	10:30 -17:30	10:30 -17:30	10:30 -17:30	10:30 -17:30	10:30 -17:30	10:30 -17:30	10:30 -17:30	10:30 -17:30	10:30 -17:30	10:30 -17:30
13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
10:30 -17:30	10:30 -17:30	10:30 -17:30	10:30 -17:30	10:30 -17:30	10:30 -17:30	10:30 -17:30	10:30 -17:30	10:30 -17:30	10:30 -17:30	10:30 -17:30	10:30 -17:30
25	26	27	28	29	30	31					
10:30 -17:30	10:30 -17:30	10:30 -17:30	10:30 -17:30	10:30 -17:30	10:30 -17:30	10:30 -17:30					

8月6日(日)、9日(水)、23日(水)はお休み
4日(金)は15:00開店
24日(木)は14:00開店

ベアトウスの黙示録註解書写本について

中世初期のイベリア半島北部アストゥリアス地方のリエバナにある修道院の修道士、ベアトウス(ベアトBeato ? -798)が776年に「ヨハネの黙示録註解書」を編纂しました。原本は既に存在していませんが、非常に人気を博し、10世紀から12世紀にかけて多くの写本がイベリア半島はもとよりフランスやイタリアなどで制作されました。ほとんどの写本には、彩色された挿絵が多数描かれており、その鮮やかな色使いと想像力豊かなインパクトの強い挿絵が後世にながく影響を与えてきました。

これまでに発見されたベアトウス写本のうち、挿絵入りのものは29 写本あり、そのうち完本の写本は22写本、断簡の写本が7写本あります。

本ライブラリーには完本22写本のうち19写本のファクシミリ版があります。ファクシミリ版の中には羊皮紙の厚みやシワ・汚れ・破れ・落書きなどをそのまま再現した精巧なものもあります。

1000年近く前に作成された写本の当時の雰囲気味わってください。

今月の展示写本

今月は中世の写本(版画)に描かれた異形の生き物を紹介します。写本にはいろいろな動物を組み合わせたハイブリットの想像上の生き物がたくさん出てきます。それは教会の建築物にもみられ、中世では一般的に人間の住む世界の周りに未知の生き物(怪物?)が住んでいると考えていたようです。それら架空の生き物を見てみたいと思います。

【ベアトウス黙示録写本以前の黙示録写本】

(ラットレル詩編)

1325年～1340年にイギリス北部の裕福な土地所有者ラットレル卿によって作成された大部の写本。

本文周縁部に中世の生活(農業、狩猟、娯楽、音楽制作)が描かれるとともに、人間の頭、動物/魚/鳥の体、植物の尾を組み合わせた想像上のハイブリッド怪物が多数描かれています。

(マックスフィールド詩篇)

1330-1340年頃のイギリス東部で制作された小型の写本。

擬人化された動物たちが当時の人々が楽しんだ狩りや馬上槍試合に興じたり、ネズミが猫をやっつけ、兎が獵犬を獲物にひっさげてさかさまの世界が展開され、お猿のお医者さんが薬を処方し、狐の司祭がアヒルに説教するなど痛烈な風刺が披露されたりしています。

【ベアトウス黙示録写本群から】

(オスマ写本)

1086年に制作された写本。系統的にはベアトウスの書いた註解書の最初のバージョンで、系統図やダニエル書の挿絵は含まれていません。

挿絵に使用されているエメラルド色やグリーン・薄青の背景色が特徴。

(ナバーラ写本)

12世紀末に制作された写本で、オスマ写本と同様、註解書の最初のバージョンです。

挿絵は枠にとらわれずはみ出して描かれており、地の紫色が特徴。

【ブリューゲルの版画から】

ピーテル・ブリューゲル(1525年から1530年頃 - 1569年9月9日)は、16世紀のブラバント公国(現在のオランダ)の画家。同名の長男と区別するため「ブリューゲル(父、または老)」と表記されることが多い。

ブリューゲルの油絵は40点ほどが知られています。「子供の遊戯」「農民の婚宴」「農民の踊り」など農民を描いた絵や「エジプトへの逃避途上の風景」「バベルの塔」などの宗教画・寓意画が有名です。

版画も多数残されていて、今回は岩波書店から出版された全版画95枚を展示します。

版画も風景画のほかに寓意画も多く、シリーズ「7つの大罪」「7つの徳目」や「聖アントニウスの誘惑」「忍耐」「大きな魚は小さな魚を食う」などが有名です。

『7つの大罪』

キリスト教世界では、傲慢、嫉妬、激怒、怠惰、貪欲、邪淫、大食の順に罪深いと考えてきた。

ブリューゲルは彼なりの考えから、貪欲をその筆頭に置いた。けれどブリューゲルの時代には、商業活動が活発化し、金銭の価値が上がってくるのに伴い、金銭への執着と金銭を巡る争いが、社会問題となってきた、ブリューゲルはそんな有様を見聞するにつれ、貪欲こそ人間にとってもっとも罪深いものだと考えるようになったのだろう。大罪シリーズの作品はいづれも、中央に罪を擬人化した人物が位置し、その周りを当該の罪と深い関連をもつ事柄や怪物のイメージが所狭しと並んでいる。

(「壺齋散人の 美術批評」より)